

式 辞

寒さにじっと耐えていた木々の芽が、柔らかな春の光に誘われて そっとふくらみ、川のせせらぎが、心地よく聞こえ まさに春いっぱい今日の佳き日を祝ってくれているようです。

卒業証書を手にした三十九名の皆さん、ご卒業 おめでとう
ございます。また保護者の皆様、本日のお子様のご卒業おめで
とうございます。



卒業生の皆さん一人ひとりが手にした卒業証書の感じはどうか。重みを感じている卒業証書は、六年間の小学校の課程を修了するという意味であるとともに 中学校へのパスポートともなる大事な証です。

皆さんの努力があったことはいうまでもありません。しかしここにお集まりくださったご両親や地域の方々、そしてまた多くの方々の励ましや力添えがあったことを忘れてはなりません。

本日、明石市教育委員会より大西裕幸次長様を始め、日頃よりお世話になっております地域の多くの来賓の方々ご臨席のもと 栄えある大観小学校第百七回卒業証書授与式を挙げてまいりますことは、誠にありがたく喜びに堪えません。高い所からではございますが、心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて卒業生の皆さんはこれまで学校の行事、その他いろいろな活動で いつも低学年の人たちには特に 思いやりの心を持ちながら、優しく接し、立派な模範を示してくれました。話を聞く時は、話す相手を見て、その人の気持ちを感じながら内容を理解しようと努めてきました。皆さんがとった行動や態度でこの大観小学校の長い歴史と伝統が、より一層輝いてきたように思います。

今、背筋を伸ばして座っている皆さんを見ていると、緊張した中にも余裕が伺えます。六年間の小学校生活というひとつの山を越えた喜びと、目の前にした中学校生活に新しい目標を持って向かっていこうという強い決意がうかがえ、とても頼もしく思えます。

ここで皆さんの門出を祝し、私から特別に次の言葉を贈ります。それは「してもらう幸せ できるようになる幸せ してあげる幸せ」です。この言葉は日本のある有名な会社の元社長である鍵山秀三郎さんが、常日頃使っていることばです。一つ目は「してもらう幸せ」です。赤ちゃんのとき、抱っこしてもらうと嬉しいと感じたことでしょう。誰もが何かをしてもらうと嬉しいという気持ちになります。二つ目は「できるようになる幸せ」です。小学生になって、鉄棒の逆上がりができるようになって嬉しいとか、勉強がわかるようになって嬉しいと思ったことが多くありますね。できなかったことができるようになる幸せです。そして三つ目は「してあげる幸せです。」家の人のお手伝いをしてあげるとか、困っている友だちを助けてあげる。そうすると家族、友だちが喜んでくれる。人が喜ぶ姿、喜んだ顔を見たときに、自分も幸せになれる。ということです。

人は誰もが幸せになりたいと思っています。そしてまた大人は誰もが、子どもたちに幸せになってほしいと願っています。中学校に進学される皆さんには、「これからの中学校生活が充実し楽しい学校生活であってほしい」と皆さんが強く感じられていることと思います。

皆さんには特に三つ目の「してあげる幸せ」を感じながら、誰に対しても 喜んでもらえることを進んで働きかけてほしいと強く願います。「してあげる幸せ」を感じるようになると、生きる楽しみはどんどん広がり、それにつれて幸せは、もっと深まります。そして「してあげる人」の周りには、人が自然に集まり、すてきな人たちと共に生活ができて 幸せが益々増えます。

人が喜ぶ姿をみて自分も幸せを感じる。鍵山さんは仕事をする中で常にこの言葉を信じて、仕事に励んできたそうです。鍵山さんのこういう逸話があります。はじめ会社にとってはあまり大切なものと思われなかった掃除（トイレ掃除）を毎日のように鍵山さんは、自らし続け、十五年ぐらいたった頃、お客さんから信用のある会社だと少しずつ認められ大きく成長していきました。努力が実ったわけです。卒業される皆さんが「してあげる人」になって幸せを感じながら家族や友だちに喜んでもらえることをしてあげてください。

皆さんとは三月の初め頃まで校長室で三人ずつ一緒に給食を食べながら歓談をしましたね。皆さんは一人ずつ思いを語ってくれました。学校生活のこと、中学校生活に思うことなど、それぞれ自分の考えをしっかりと語ってくれました。その中に「大観小学校は子どもの数は少な

いけれど、全校生が一つの場所に集まって楽しい活動ができることは、家族みたいで、そこが大観小学校の良いところだと思います。」と答えてくれた人がいました。しっかりした答え方に頼もしさを強く感じました。とても短い時間でしたが、本当に気持ちのよい時間を過ごせました。ありがとうございます。

次に、在校生を代表して、卒業式に参列した五年生の皆さんにお願いします。卒業生の皆さんが残してくれた、大観小学校の伝統と校風を受け継ぎ、これを大切に守り、さらに発展させてください。

続きまして、保護者の皆様にひと言ご挨拶申し上げます。

入学してから、早六年が立ち、本日、小学校の全課程を無事終了し、本校から巣立っていくことになりました。私たち教職員は、六年生担任を中心として誠に微力ではありますが、お子様の健やかな成長を願って誠心誠意全力で指導にあたって参りました。中には至らぬ点があったかと思いますが、これまで私たちに寄せられたご好意、本当にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが、卒業生の皆さんに「さくらの葉っぱのカード」を贈ります。十一月の落ち葉を集めてつくりました。

この体育館の北側に、でんと構えて立っているさくらの木があるのを知っていますね。間もなくその花の美しさで観るものの心を和ませてくれます。そして秋には葉が紅く色づき、とても落ちついた雰囲気を出してくれます。

ではみなさんに さくらの名前一文字ずつを使って贈ることばとします。

さくらの「さ」 さあ、とびだそう

さくらの「く」 くなんの道もなんのその

さくらの「ら」 わかものらんなーとして

思い描く夢に向かって つっ走ってください。

以上をもちまして、式辞といたします。

平成二十八年三月二十三日

明石市立大観小学校

校長 藤井 達雄